

2024 年度

自 2024 年 4 月 1 日

至 2025 年 3 月 31 日

事業報告書

I 2024 年度 事業報告書

2022 年度から 2 か年にわたり、脱脂粉乳の過剰在庫による影響を受け、生乳生産は減産を余儀なくされましたが、生産者・乳業者の拠出金を基に過剰在庫削減対策が行われ、これらの効果により 2024 年度は増産型の計画生産へと転換しました。しかし、物価高騰による酪農経営環境の悪化に伴う酪農家戸数の減少や、生産抑制対策の一環で行われた駄牛淘汰、さらには乳用種交配率の低下により乳牛資源が減少し、生乳生産量は当初計画を下回りました。今後においても、生産基盤の回復や、暑熱による生産ロスの低減、無脂乳固形分の需要拡大等の課題に対し、業界をあげて継続的に取り組んでいく必要があります。

このような中、本会においては、使命である本道酪農・乳業の健全な発展に資するため、乳牛検定・生乳検査に係る基本事業を継続するとともに、持続可能な酪農経営向上に向けた取り組みや乳質改善事業等に積極的に協力しました。

牛群検定事業については、乳牛検定組合数 98 組合、農家数 3,342 戸（生乳出荷農家に対する普及率は 76.6%）、検定頭数約 34 万 2 千頭を対象に実施しました。検定組合の安定的な運営を支援するため、各種補助事業の推進を図ったほか、検定簡易化手法の検討や普及に取り組み、検定加入促進と離脱防止に努めました。また、検定情報の活用支援を継続的に行うことと併せて、2025 年度に予定している検定成績表の改訂に向けた作業等に取り組みました。電算業務では、マスター及び検定記録を迅速に処理し、各種情報の元となるデータを集積したほか、検定組合及び本会の業務効率化や検定情報利用者の利便性向上を目的に、牛群検定 Web システムの改修等を行いました。調査研究業務では、生涯生産性の改良促進や乳牛の健全性に関する調査分析を行い、分析結果を広く周知しました。

後代検定事業の推進業務については、関係団体と連携して調整交配の円滑な実施と娘牛保留に努め、能力の高い国産種雄牛の作出に協力したほか、未經産 SNP 事業を通じてゲノミック評価技術の普及を図りました。また、北海道乳牛改良委員会、及び全国段階の会議体に参画し、改良事業の推進に係る提言を行いました。

生乳検査事業については、合乳検査、個乳検査、個体乳検査、付帯検査及び申請検査について、公正かつ正確な検査を実施しました。指定生乳生産者団体と乳業者との取引等に関わる合乳検査においては、396万4千トン（前年度対比101.0%）を対象に、成分、体細胞数、細菌数等の検査を実施しました。また、生乳検査システムの追加開発を行い、利便性の向上と業務の効率化を推進しました。検査業務の基本となる検査精度は、試験所及び校正機関の能力に関する公定法分析についてのISO/IEC17025認定機関として国際規格に基づき適正に管理しました。

乳質改善支援業務については、高品質で安全性の高い生乳の継続的な生産・供給のため、北海道乳質改善協議会と連携を密にし、生産から輸送段階の衛生管理、乳房炎防除、抗菌性物質残留の防止等に取り組みました。

調査試験業務については、今後の新しい情報として期待される種別体細胞数(DSCC)の調査試験に取り組んだほか、異常風味判定に係る官能評価員の養成を目的としたトレーニングを実施しました。

組織運営においては、本道酪農を取り巻く情勢が依然として厳しい状況であったものの、当会の事業活動を滞ることなく推進することができ、公益法人の財務規律である「収支相償」を達成することができました。また、第7期業務運営に係る中期計画に基づき、効率的な組織体制推進の一環として、帯広事業所の移転を行うとともに、根室・釧路管内を一元的にカバーする道東事業所体制の構築に向けて、関係各位の理解を得ながら検討・準備を進めました。

システム関連では、業務基盤システムの運用・管理を行い、動作環境やネットワーク機器の監視を実施しました。併せて、予定していた基盤システムのデータセンター間移設について、当初の計画どおり完了することができました。

このほか、本会が提供する加工情報の周知と活用促進への取り組みとして、機関誌やホームページによる情報の発信等、広報活動を行いました。

第1 事業の実施状況

1 乳牛検定関係

(1) 牛群検定事業

ア 牛群検定の実施

- 年度末における検定加入状況は、検定組合98組合、実施農家戸数3,342戸(28戸加入、173戸除籍と前年度より145戸減少)、検定牛頭数は341,552頭(前年度より2,257頭減少)となっている。

イ 牛群検定の推進

- 未加入農家を対象とした試行検定事業を推進したほか、検定簡易化手法の普及、及び検定情報の活用支援を行い、離脱防止と加入促進に努めた。
- 乳用牛群検定全国協議会と協力し、推定精度を検証した上でAT検定(3回搾乳)の実施要件を緩和した。
- AZ法は41戸(1.2%)、AT法は2,990戸(89.5%)、自動検定(搾乳ロボット検定)は379戸(11.3%)となった。大規模検定システムは、13機種に対応し、40組合、106戸(前年度より8戸増)の利用実績であった。
- 「乳検PAGs検査オプション」を加入メリットとして周知し、941戸(検査受託地区の38.0%)の検定農家で、年間延べ106,275検体(対前年108.8%)の利用実績となった。

ウ 年間検定成績

- 2024年1～12月の集計では、平均頭数97.9頭(前年より3.0頭増)、経産牛1頭当たり乳量9,983kg(前年より134kg増)、1日当たり乳量31.3kg(前年より0.2kg増)、分娩間隔422日(前年より4日延長)となった。

エ 検定情報の利活用の指導・支援

- 検定事業を円滑に推進するため、各地区、組合代表者による協議会・会議等を実施した。

① 検定員養成研修会

- ・開催日 2024年8月29日～30日
- ・開催地 札幌市、千歳市
- ・出席者 24名

- ② 乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議
 - ・開催日 2024年9月26日
 - ・開催地 札幌市
 - ・出席者 34名
- ③ 地区別検定組合長協議会
 - ・開催期間 2024年10月15日～29日
 - ・開催地 10地区
 - ・出席者 延べ258名
- ④ 地区別検定員研修会
 - ・開催期間 2024年11月25日～29日
 - ・開催地 9地区
 - ・出席者 延べ271名
- ⑤ 検定員中央研修会（乳用牛群検定全国協議会との共催）
 - ・開催期間 2025年2月27日
 - ・開催地 札幌市
 - ・出席者 255名
- ⑥ 検定情報活用研修会
 - ・開催期間 2025年2月28日
 - ・開催地 札幌市
 - ・出席者 215名

- 2024年度優秀検定員として、本会が推薦した10名が乳用牛群検定全国協議会から表彰された。

(2) 後代検定事業の推進業務

ア 後代検定娘牛に係るマスター登録・生産娘牛・受胎状況

- 検定組合、連合会、関係団体等との連携により事業を推進した。

後検年度	調整交配頭数	受胎頭数	生産娘牛頭数	マスター登録頭数
2021 後 検	31,787	15,741	5,820	4,715
2022 後 検	24,440	12,068	4,546	4,334
2023 後 検	19,975	9,999	(3,404)	(1,842)

(注) カッコ内は経過中の頭数

イ 2024 後検の調整交配

- 2024 後検では、ゲノミック評価情報等による予備選抜を経たヤングサイア 59 頭の調整交配が実施された。本会は、地区連合会との協議に基づき調整交配精液の配分案を作成した。
- 基本計画頭数に追加希望 2,961 頭（32 組合）が上乗せされた。調整交配を行うヤングサイア頭数は、当初計画の年間 80 頭から 59 頭に変更され、変更後の計画頭数は 17,937 頭（前年度から 3,339 頭減）となった。

前 期 期間：2024年11月～2025年 2 月		後 期 期間：2025年 4 月～2025年 7 月		合 計	
ヤングサイア 頭 数	調 整 交 配 計 画 頭 数	ヤングサイア 頭 数	調 整 交 配 計 画 頭 数	ヤングサイア 頭 数	調 整 交 配 計 画 頭 数
34	10,260	25	7,677	59	17,937

ウ 後代検定事業の理解醸成に係る取り組み

- 北海道乳牛改良委員会に参画し、今後の改良の方向性を協議するとともに、組合長協議会等で取り組み内容を報告し、意見交換を行った。

(3) 補助事業及び受託事業

ア 経営体質強化に向けた牛群改良加速化事業

- ゲノミック評価技術の更なる活用を図るため、モデル農家における SNP 検査用サンプルの採取、能力検定、及び現地指導の取り組みに対し、北海道から本会を通じて 82 組合に 3,658 万円が交付された。
- 本会は、事業推進に係る研修会開催及び事務費用等として、36 万 9 千円の交付を受けた。

イ 酪農経営支援総合対策事業

（乳用牛改良増殖推進事業：飼養管理技術の向上対策）

- 検定組合等が実施した乳用牛の飼養管理技術に係る指導、及びそれらに必要な分析・検査等の取り組みに対し、（一社）家畜改良事業団から 93 組合に 1 億 737 万円が交付された。
- 本会は、（一社）家畜改良事業団との委託契約に基づき、事業推進に係る取りまとめ事務等を実施し、183 万 2 千円の交付を受けた。

ウ 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛改良増殖推進事業：遺伝的能力向上対策）

- （一社）家畜改良事業団との委託契約に基づき、検定組合等において後検娘牛とその同世代牛 19,280 頭の SNP 検査用サンプルの採取を実施し、90 組合に（一社）家畜改良事業団から本会を通じて 4,970 万円を交付した。
- 本会は、ゲノミック評価の利活用を図るため、勉強会の開催及び取りまとめ事務費として、（一社）家畜改良事業団より 126 万 2 千円の交付を受けた。
- 本会は、（一社）家畜改良事業団との委託契約に基づき、ゲノミック評価の提供に係るシステムの開発、及び新たな評価形質の提供に係る搾乳ロボットデータの収集と提供を行い、199 万 8 千円の交付を受けた。

エ 酪農経営支援総合対策事業

（乳用牛改良増殖推進事業：遺伝的能力向上対策 ヌレ子（調整交配）事業）

- 調整交配用精液を活用する検定農家に対し、（一社）家畜改良事業団から本会を通じて、乳用種雄子牛の出生頭数に応じた支援金 2,503 万円を交付した（検定農家 1,306 戸、対象頭数 4,172 頭）。
- 本会は、事業推進に係る取りまとめ事務費として、（一社）家畜改良事業団より 24 万 4 千円の交付を受けた。

オ 乳用種雄牛後代検定受託事業

- 令和 6 年度乳用種雄牛後代検定事業に係る（一社）家畜改良事業団との委託契約に基づき、本会を通じて検定組合等に次の助成金を交付した。
- 2023 後検受胎頭数 9,999 頭の調整交配促進費として、検定組合等に合計 499 万円を交付した。
- 2023 後検後期分 15,540 本、2024 後検前期分 15,960 本の調整交配精液の保管配送費として、各 AI サブに対して合計 658 万円を交付した。
- 産子事故調査 1 件について、検定組合等への調査謝金及び協力農家謝金として合計 5 万円を交付した。

カ 乳用牛改良対策事業（牛群検定の試行）

- 牛群検定の普及を目的に、27 組合、56 戸で試行検定を実施し、（一社）家畜改良事業団から本会を通じ、検定組合等に助成金 236 万円を交付した。
- 本事業は、平成 11 年度から令和 6 年度までに計 1,167 戸が実施し、牛群検定の普及定着に効果をあげている。

キ 乳用牛の泌乳前期健全性改善指標開発事業

- 酪農学園大学との共同実施契約に基づき、本事業に係るデータ分析業務等を実施し、224万円の交付を受けた。

(4) 電子計算業務

ア マスター登録業務

- 検定農家及び検定牛（未經産含む）のマスター登録について、28戸、148,276頭の追加処理、及び154戸、149,348頭の除籍処理を行った。

イ 検定成績の計算処理業務

- 検定記録の年度処理について、653万6千件（月平均54万5千件、前年度から10万件減）の報告があり、これに対する修正を4万7千件（報告件数の0.7%）、照会を3万1千件（前年度から4千件減）処理した。
- 検定成績のフィードバック状況は、検定立会から検定成績表発行までの平均日数で3.66日（前年度と同値）であった。
- 検定日速報及び乳成分速報をインターネット FAX で提供するサービスを、36組合、1,043戸の検定農家が利用した。
- 牛群検定 Web システムの帳票メール通知機能を利用して、検定農家386戸及び検定組合52組合が帳票を電子データで受信した（前年度から農家宛84戸増、組合宛11組合増）。

ウ 牛群検定システム、基幹システム等の開発・補完・運用

- 検定組合及び本会の業務効率化、牛群検定 Web システム等利用者の利便性向上のため、各種システムの開発を行った。

2024 年度 開発業務

対 象	主な改修内容
牛群検定 Web システム	・訂正依頼画面における牛検索機能の拡充 ・農家詳細、記録の照会画面における表示項目拡充
牛群検定 Web システム DL	・利便性向上のためのモバイル版リニューアル ・グラフ画面の視認性向上
検定記録送受信ソフト	・タブレットマニュアル参照機能の追加 ・自動搾乳検定システムでの追加牛入力機能改善
検定情報収集端末(タブレット)	・3回搾乳 AT 検定の運用細則変更への対応 ・タイマーレシートの取得、確認ボタン統合
内部ツール及び帳票	・検定成績表の改訂に係る改修 ・請求の電子化に係る開発

- 帳票オプションの申込方法及び料金体系の見直しに対応した設定画面の運用を開始し、検定組合は帳票発送の要不要を牛群検定 Web システムから随時申し込み可能となった。
- 請求書発行方法を変更し、検定組合等が牛群検定 Web システムから電子印付き請求書をダウンロードする体制へ移行した。
- 検定現場の需要を踏まえたシステム開発を行うため、検定組合へのアンケートを実施した。

エ 牛群検定データを用いた乳牛改良等の調査研究と情報活用

- 乳用牛の泌乳前期健全性改善指標開発事業に参画し、乳中ケトン体（BHB）と脂肪酸組成について生産形質、繁殖形質、生涯生産性関連形質との表型的・遺伝的関連を調査し、その結果を取りまとめて学術論文として投稿した。
- 搾乳ロボット農家への新たな提供情報を検討するため、自動検定で収集したロボットデータの調査分析を継続した。
- 研究機関と共同研究を実施し、学会での研究発表7題、共著論文5題に協力した。また、研究機関等からの要請に応じて牛群検定データの提供を行い、生涯生産性等の改善に必要な研究の推進に協力した。

2 生乳検査事業関係

(1) 生乳検査事業

ア 合乳検査の実施

- 指定生乳生産者団体及び乳業者との検査契約に基づき、成分・体細胞数検査16万9千検体及び細菌数検査7万1千検体の検査を実施した。
- 検査対象乳量は、396万4千トン（前年度対比101.0%）であった。
- 脂肪率及び無脂乳固形分率は、それぞれ4.099%（前年度4.051%）、8.854%（同8.816%）であり、脂肪率が0.048ポイント上昇し、無脂乳固形分率が0.038ポイント上昇した。
- 衛生的乳質においては、細菌数1万/ml以下の比率は97.0%、体細胞数30万/ml以下の比率は、98.2%と、引き続き高水準を維持した。
- 体細胞数20万/ml以下の比率は、2.6ポイント上昇し77.1%（前年度74.5%）であった。

イ 個乳検査の実施

- 検査契約を締結した農協等 83 団体（農家戸数は 3,239 戸）を対象に、成分・体細胞数検査、細菌数検査ともに、12 万 9 千検体の検査を実施した。
- 検査対象乳量は、成分・体細胞数検査、細菌数検査ともに 262 万 6 千トン（前年度対比 100.8%）であった。

ウ 個体乳検査の実施

- 検査契約を締結した組合等 76 組合（農家戸数は 2,475 戸）を対象に、成分・体細胞数検査について 225 万 5 千検体（前年度対比 100.0%）の検査を実施した。

エ 付帯検査及び検査資材の提供

- 生乳生産者団体等及び乳業者からの申請により実施した付帯検査の総件数は、51 万 3 千検体、検査用資材の提供総数量は 12 万枚であった。
- 付帯検査で主要な割合を占めるバルク乳及び個体乳の体細胞数検査は、44 万検体（前年度対比 92.7%）であった。
- 乳房炎起因菌同定検査は 1 万 2 千検体（前年度対比 97.0%）であった。

オ 申請検査の実施

- 生乳生産者団体及び検定組合からの申請により実施した PAGs 検査の総検体数は、15 万 3 千検体（前年度対比 107.1%）であった。
- 生乳生産者団体からの申請により実施した出荷毎個乳検査の総検体数は、30 万検体（前年度対比 96.7%）であった。
- 生乳生産者団体及び乳業者からの申請により実施した生乳分析装置の校正に係る検査は、10 団体、延べ 1,698 検体であった。
- 地区連合会からの申請により実施したバルク乳中マイコプラズマ菌（属）検査の総検体数は、3,251 検体（前年度対比 94.6%）であった。

カ 生乳検査精度管理の充実強化

- （公財）日本乳業技術協会が認証する生乳検査精度管理認証施設として本会の内部精度管理の充実を図り、定められた作業標準等に基づき適正な検査を行うことで公正かつ正確な検査の実施に努めた。
 - ・生乳検査精度管理認証については、認証 6 期目となる更新審査を受けた。

- 乳成分測定機の精度管理を目的として実施している公定法分析について、ISO/IEC17025 認定機関として、国際規格に基づき適正に実施した。
 - ・ ISO/IEC17025 認定については、更新審査の結果、3 期目の認定継続が承認された。

キ 外部精度管理への参加及び国内機関との連携

- (公財) 日本乳業技術協会が実施する外部精度管理調査及び ICAR が実施する体細胞数測定機の国際技能試験に参加し、乳成分及び体細胞数測定機の精度確認を実施した。
- 乳成分測定機における精度管理の根幹となる公定法分析については、(公財) 日本乳業技術協会と定期的なクロスチェックを実施し、国内の検査精度確保に協力するとともに、外部精度管理として国際的な技能試験提供機関 (FAPAS) が実施する技能試験に参加した。
- 微生物試験に関しては、(一財) 日本食品検査が実施する外部精度管理に参加した。
- 外部精度管理の結果については、いずれも良好な評価を得た。

ク 生乳検査システムの開発・更改・運用

- 2023 年度に開発した生乳検査システムの運用を開始し、新たに付帯検査結果をデータベースに蓄積することで、検査結果報告及び請求処理に係る事務作業の統一及び業務の効率化を図った。

(2) 乳質改善支援業務

ア 乳質改善への支援

- 乳質改善に係る技術普及の面では、北海道乳質改善協議会と連携し、生乳集荷業務新任担当者研修会、ミルカー管理技術指導者講習会の企画立案への協力、講師派遣を行うとともに、関係機関の主催する研修会にも講師を派遣し、良質乳生産技術の普及を図った。
- 地区乳改が主体となり、個乳生菌数削減対策を目的に延べ 5 千検体の生菌数検査を実施した。

イ 生乳検査機器等の精度チェックと校正指導

- 指定生乳生産者団体からの依頼を受け、年 4 回、農協等が所有する乳成分・体細胞数測定機及び細菌数測定法のクロスチェックを実施した。

- 乳業者が所有する乳成分測定機についても年6回、クロスチェックを実施した。
- これらのクロスチェックについては、いずれも基準内であり、良好に管理及び運用されていることを確認した。

ウ 生乳取扱者技術認定講習会

- 生乳取扱者の生乳等に関する専門知識及び生乳検査の技術水準の向上を図ることを目的として、生乳取扱者や畜産関係技術者等を対象に生乳取扱者技術認定講習会を開催した。
- 効果測定の結果に基づき、認定基準を満たした受講者に、北海道知事から認定証が交付された。
 - ・ 開催期間 2024年11月11日～15日（5日間）
 - ・ 開催地 札幌市
 - ・ 受講者数 58名（生産者団体、乳業者、集送乳業者の各担当者）
 - ・ 知事認定者 58名
 - ・ 運営委員会の開催 2回

エ 生乳の風味向上への取り組み

- 本道生乳の一層の風味向上に資するため、異常風味発生時の確認検査及び現地調査に協力するとともに発生事例の蓄積を行った。
- 関係機関による異常風味発生防止を目的とした検討会や、大学が行う研究事業等に協力した。
- 関係機関及び集荷担当者を対象とした講習会等では、訓練用サンプルを用いた模擬官能検査を実施し、官能検査レベル向上を図った。

(3) 安全・安心に向けた取り組み

ア 生乳のトレーサビリティ確保に向けた取り組み

- 指定生乳生産者団体が進める生乳トレーサビリティ確保への取り組みに、本会が窓口となり収集する生乳流通情報（出荷乳量、乳温）を提供することで協力した。

イ ポジティブリスト制度に係る検証

- 指定生乳生産者団体が推進するポジティブリスト制度に対応した農薬・動物用医薬品使用記録や搾乳・乳温等の生産履歴の記帳記録推進に協力した。

- 指定生乳生産者団体からの要請により、農薬・動物用医薬品の用法・用量の遵守、記帳等による安全確保の仕組みが良好に機能していることを確認する目的で、タンクローリー乳を対象として抗生物質カナマイシン 1,891 検体について残留確認検査を実施し、全て陰性を確認した。また定性キットによるキノロン系薬剤の残留確認検査を3検体実施し、全て陰性を確認した。
- (一社) J ミルクが全国的に実施したアフラトキシン検査のうち、北海道分の3検体について検査協力を行い、全て陰性を確認した。

(4) 調査試験業務

ア 種別体細胞数 (DSCC) に関する調査試験

- 新型の体細胞数測定機に搭載される種別体細胞数情報について、機器設置事業所の管轄地域を対象とした現地調査に着手し、実用化に向けた検討を行った。

イ 官能評価員の養成

- 生乳の格付け検査として重要な位置づけである風味検査について、分析型パネリストの養成を目的として、全事業所の検査員を対象に年間9回以上のトレーニングを実施した。
- 本会基準を満たした16名の検査員を分析型パネリストに認定した。

(5) 道産食品独自認証制度 (ナチュラルチーズ) 認証の実施

- 道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズ認証機関として認証実務の取り組みを行った。なお、2024年度における対象品目は前年度同様、1事業者、2品目であった。

・継続及び新規認証受付	2024年5月
・書類審査及び現地審査	2025年2月20日
・専門家審査	2025年3月28日

3 総務部関係

(1) 基本事項への対応

- 理事の職務執行は、法令及び定款、理事会運営規程、事務局規程等に基づき行なわれたほか、コンプライアンス規程、リスク管理規程に基づき適切な対処と予防策の構築に向けた対応を行った。
- 公益法人としてのコンプライアンスの徹底を図るため、内部監査 (年3回) を計画的に実施した。

- ・第1回 2024年7月9日～10日
- ・第2回 2024年9月10日～11日
- ・第3回 2024年11月12日～13日

- 組織運営の基盤を成す人材育成については、外部研修団体によるセミナーや講習会への受講を通じて、教育・研修の充実を図った。また、eラーニングを活用し、個人情報保護や情報管理に関する法令遵守のほか、ハラスメント防止に係る職員への意識向上を図った。

(2) 組織運営関係

ア 中期計画（2024年度～2026年度）の推進

- 第7期中期計画の初年度である本年は、計画に基づき事業推進が図られるよう、関係部署と連携しながら取り進めた。

イ 業務効率化の推進

- 第7期中期計画に沿った効率的な組織体制推進の一環として、帯広事業所の移転を実施し（2024年11月）、また、根室・釧路管内を一元的に対応する道東事業所体制の構築について、地区連合会、JA、乳業者をはじめとする関係者の理解を得ながら検討・準備を進めた。

ウ 財務規律の遵守と計画的な資金準備への対応

- 公益法人の財務規律である「収支相償」の遵守に努めたほか、将来の機器更新に向けた資産取得資金に関し、財務状況を勘案しながら資金の積み立てを行った。

(3) システム管理・運用業務への対応

- 基盤システム及びネットワークの動作監視、運用管理を実施し、安定的な業務システム稼働に係る対応を行った。
- 次期システムへの移行に伴う基盤システムのデータセンター間移設について、当初計画に基づき推進し、予定通り実施完了した。

(4) 広報活動

- 機関誌「乳s」を年2回発行し、道内の全生乳生産者及び関係機関・団体に向けて、検定情報の活用法や乳質改善に関する技術情報等を発信した。
- ホームページを通じて、牛群検定・後代検定事業及び生乳検査事業に関する各種成績や統計情報を公開し、必要に応じて随時更新した。

第2 主要な処理事項

年 月 日	処 理 事 項
2024. 5. 30	第 1 回 生乳取扱者技術認定講習会運営委員会（札幌市）
6. 4 ・ 7	2023 年度 決算会計監査（札幌市）
7	2023 年度 決算監査（札幌市）
10	第 1 回 理事会（札幌市）
27	第 50 回 通常総会（札幌市）
7. 9 ～ 10	第 1 回 内部監査（札幌市）
8. 29 ～ 30	検定員養成研修会（札幌市）
9. 10 ～ 11	第 2 回 内部監査（札幌市）
26	北海道後代検定推進会議（札幌市）
26	乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議（札幌市）
10. 15 ～ 29	地区別検定組合長協議会（全道 10 会場）
28 ・ 31	2024 年度 上半期会計監査（札幌市）
11. 11 ～ 15	生乳取扱者技術認定講習会（札幌市）
12 ～ 13	第 3 回 内部監査（札幌市）
19	2024 年度 上半期監事監査（札幌市）
25 ～ 29	地区別検定員研修会（全道 9 会場）
12. 12	第 2 回 理事会（札幌市）
25	第 2 回 生乳取扱者技術認定講習会運営委員会（札幌市）
2025. 2. 20	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査（興部町）
27	検定員中央研修会（札幌市）
28	検定情報活用研修会（札幌市）
3. 13	第 4 回 理事会（札幌市）
28	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ専門家審査（札幌市）

第3 総 会

年 月 日	出席会員	議 案 と 議 決 状 況
第 50 回通常総会 2024. 6. 27	39	I. 報告事項 1. 2023 年度事業報告書について II. 付議事項 1. 2023 年度決算報告書（貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録）について 2. 2024 年度会費の賦課並びに徴収について 3. 2024 年度役員報酬について 4. 役員の選任について 原案どおり議決

第4 理 事 会

年 月 日	主 なる 議 案 と 議 決 状 況
第 1 回 2024. 6. 10	1. 2023 年度事業報告書、決算報告書（貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録）の承認について 2. 検定事業に係る補助事業等の実施について 3. 役員損害賠償責任保険の更新について 4. 規程の一部改正について 5. 役員選考委員の選任について 6. 第 50 回通常総会の開催について 原案どおり議決
第 2 回 2024. 12. 12	1. 検定事業に係る補助事業等の実施について 2. 2024 年度収支予算（損益ベース）の補正について 3. 付帯検査の項目追加及び検査手数料の一部改定について 4. 申請検査の継続及び検査手数料の一部改定について 原案どおり議決
第 3 回 2025. 3. 13	1. 2024 年度収支予算（損益ベース）の補正について 2. 2024 年度資産取得資金積立額について 3. 道東事業所体制による業務開始について 4. 2025 年度事業計画及び収支予算（損益ベース）について 5. 公益法人制度の改正及びその対応について 6. 定款の変更について 7. 規程の一部改正について 8. 事務局長の任命について 原案どおり議決

第5 組 織

1 会 員

区 分	2023 年度末現在	2024 年度加入	2024 年度脱退	2024 年度末現在
一 般 会 員	34	0	0	34
会 費 会 員	3	0	0	3
特 別 会 員	7	0	0	7
合 計	44	0	0	44

(会員名簿) (順不同)

一般会員

会 員 名	会 員 名
北海道 一般社団法人ジェネティクス北海道 一般社団法人北海道酪農協会 北海道ホルスタイン農業協同組合 公益財団法人北海道農業公社 サツラク農業協同組合 株式会社 J H B S ホクレン農業協同組合連合会 上川生産農業協同組合連合会 釧路農業協同組合連合会 根室生産農業協同組合連合会 十勝農業協同組合連合会 宗谷生産農業協同組合連合会 日高生産農業協同組合連合会 胆振生産農業協同組合連合会 石狩乳牛検定協会 空知乳牛検定組合連合会	上川乳牛検定組合連合会 後志地区乳牛検定組合連合会 道南地区乳牛検定組合連合会 胆振乳牛検定組合連合会 日高乳牛検定組合連合会 十勝乳牛検定組合連合会 釧路地区乳牛検定組合連合会 根室乳牛検定組合連合会 網走管内乳牛検定組合連合会 宗谷乳牛検定組合連合会 留萌管内乳牛検定組合連合会 一般社団法人北海道酪農畜産協会 雪印メグミルク株式会社 株式会社明治 森永乳業株式会社 よつ葉乳業株式会社 北海道日高乳業株式会社

会費会員

会 員 名	会 員 名
北海道農業協同組合中央会 北海道乳質改善協議会	北海道農業共済組合

特別会員

会 員 名	会 員 名
北海道乳業株式会社 北海道チクレン農業協同組合連合会 くみあい乳業株式会社 株式会社北海道酪農公社	タカナシ乳業株式会社 北海道保証牛乳株式会社 ラクレン農業協同組合連合会

2 役 員

(単位：名)

区 分		2023 年度末現在	2024 年度		2024 年度末現在	摘 要
			増 加	減 少		
理 事	会 長	1			1	
	副 会 長	2			2	
	専 務 理 事	1			1	(常勤)
	理 事	8	2	2	8	
	計	12	2	2	12	
監 事	代 表 監 事	1			1	
	監 事	2			2	
	計	3			3	
合 計		15	2	2	15	

3 職 員

(単位：名)

区 分	2023 年度末現在	2024 年度採用	2024 年度退職	2024 年度末現在	摘 要
総 合 職	37	1	2	36	
地域総合職	18	0	2	16	
嘱 託	9	0	1	8	
合 計	64	1	5	60	

備考：臨時職員・パート職員 24 名（年度末現在）

(参考)

牛群検定事業実施状況の推移

年度	組合数	マ ス タ 登 録				加入戸数 (戸)	除籍戸数 (戸)	全道生乳出荷 戸 数 (戸) (c)	農林水産統計 頭 数 (頭) (d)
		戸 数 (戸) (a)	普及率 (%) (a) / (c)	頭 数 (頭) (b)	普及率 (%) (b) / (d)				
2015	98	4,383	74.0	347,363	73.8	53	182	5,920	470,900
2016	98	4,297	74.6	345,857	75.3	46	125	5,759	459,400
2017	98	4,188	74.9	346,987	75.2	44	153	5,589	461,500
2018	98	4,083	75.3	345,307	74.3	42	147	5,423	464,500
2019	98	3,982	75.6	347,321	75.5	41	142	5,264	459,800
2020	98	3,898	75.3	352,306	74.9	39	123	5,176	470,200
2021	98	3,788	75.6	354,974	73.8	42	152	5,009	480,900
2022	98	3,601	75.2	345,186	73.4	29	216	4,787	470,000
2023	98	3,487	76.3	343,809	73.5	44	158	4,569	468,000
2024	98	3,342	76.6	341,552	—	28	173	4,362	—

年 (1~12月)	1頭1日当 乳 量 (kg)	年間乳量 1 頭当 (kg)	成 分 率			体細胞数 (万 /ml)	分娩間隔 (日)	空胎日数 (日)	1頭1日当 濃厚飼料給与 (kg)
			脂肪率 (%)	乳タンパク質率 (%)	無脂乳固形分率 (%)				
2015	29.4	9,306	3.96	3.32	8.80	21.1	428	151	10.9
2016	29.9	9,502	3.94	3.34	8.79	21.3	426	151	10.9
2017	29.8	9,439	3.95	3.35	8.81	20.8	426	153	11.0
2018	30.4	9,626	3.95	3.34	8.80	20.8	426	151	10.8
2019	30.8	9,734	3.96	3.34	8.81	20.3	425	150	10.8
2020	31.0	9,878	3.96	3.35	8.82	20.3	425	149	10.8
2021	31.2	9,933	3.98	3.37	8.84	20.0	422	147	10.9
2022	31.6	10,025	4.03	3.39	8.86	19.2	420	143	10.9
2023	31.1	9,849	4.02	3.38	8.84	19.7	418	145	10.9
2024	31.3	9,983	4.07	3.42	8.89	19.2	422	143	11.0

生乳検査成績の推移（合乳）

年度	成 分 率			細 菌 数 1 万 /ml以下 比率 (%)	体 細 胞 数	
	脂 肪 率 (%)	無脂乳固形分率 (%)	全固形分率 (%)		20 万 /ml以下 比率 (%)	30 万 /ml以下 比率 (%)
2015	3.941	8.768	12.709	98.8	69.2	98.8
2016	3.958	8.769	12.728	98.6	68.6	98.5
2017	3.958	8.786	12.744	98.5	70.5	98.6
2018	3.964	8.769	12.733	98.4	72.5	98.4
2019	3.967	8.776	12.743	98.2	71.4	98.4
2020	3.976	8.783	12.759	98.0	73.3	98.6
2021	4.010	8.815	12.825	97.6	75.3	98.7
2022	4.060	8.812	12.872	97.2	76.4	98.5
2023	4.051	8.816	12.867	96.9	74.5	97.7
2024	4.099	8.854	12.953	97.0	77.1	98.2

2024 年度 生乳検査実施状況

項 目		検 体 数	対前年比	備 考
				検査対象乳量 前年対比
合乳	成分・体細胞数検査	169,028 件	98.7%	3,964,418,895.7kg 101.0%
	細 菌 数 検 査	70,836 件	99.1%	
個乳	成分・体細胞数検査	129,439 件	96.2%	2,625,750,045.5kg 100.8%
	細 菌 数 検 査	129,439 件	96.2%	2,625,750,045.5kg 100.8%
個 体 乳 検 査		2,255,252 件	100.0%	
付 帯 検 査		513,541 件	— %	
検 査 用 資 材 の 提 供		120,187 件	— %	